

695
2018年
6月発行

よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。私が与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。
新約聖書 ヨハネ4:14



岡山エデンの園生まれの元気な

エンドウ豆たち

一 つ 河野進

一葉を見て

木が花が実がわかる

一言を聞いて

顔を行いを人を知る

一つに凝縮する不思議な正確さ

神の創造は

一つからはじまった

小さい一つを大切にいただく

河野進詩集「萬華鏡」より

発行所 奈良県生駒市門前町七一四〇 日本ミッション
〒630-0266 電話〇七四三(七三)一七五四 振替口座〇〇九三〇一六六四二番

発行人フアベイ・D
編集人日本ミッション編集部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
〒350-0303 新生宣教師印刷部
電話〇四九(二九六)〇七二七

一年分 送料共 九〇〇円
定価 一部 一八円



問 大学卒業後、新規開業のデザイン会社に就職。パソコン技術を信頼されて企画制作を任せられ、やりがいを感じてがんばりました。大きな仕事が入り完成して後、ミスが判明。会社に大損害を与えて自信を失い、うつ病になってしまいました。

答 様々な精神疾患が増加する現代社会、特にうつ病が増えています。厚生労働省によれば、一五人に一人は、生涯に一度は鬱を経験すると言われる時代に私たちは生きています。この方もデザイン業界に通用する高度なセンスで同業者と競争し、短期日に制作納品を決められ、さらに後任の技術指導など、ストレスが溜まる中、失敗の件で社長にひどく叱られ、気持ちが落ち込んで出社できず発病したのです。

現代の若い人が鬱を誘発する根本的な原因は、少子高学歴の時代、生まれた時から大切に育てられ、勉強に時間とエネルギーを取られ、不足や困難の経験はごくわずか。結果、失敗や試練に立ち向かう精神力が養われていない事にあるのではないのでしょうか。社会に出て初めて、自分が原因の失敗がパニックとなり、その衝撃は計り知れないストレスとなるのです。

長い人生で失敗しない人はいます。その時どう対処し心に平安を保つて問題を解決するかが問われます。五〇代のある男性がこんな体験を話しておられました。「会社で長年働き貢献してきましたが、ある時自分のミスで会社に多額の損害を与えてしまったことに気づきました。でも誰にも言えず隠していました。話せば終わりにされると思ったからです。ところがクリスチャンだった妻に私の様子がおかしいと気付かれて打ち明け、妻にも勧められ、首を覚悟で会社に事実を話しました。当然解雇は必至と思っていたのに、失敗を許され、返って信頼されて、続いて働かせてもらう事が出来ました。」この人はその後クリスチャンになりました。イエス・キリストを信じ、自分の力に信頼する生活からキリストと共に生きる人生へと転換したのです。「あなたがたは、……何をすることも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。」(一コリント10:31) (見玉 博之)

親と子のしあわせ 403

我が家には、三人の子どもが与えられました。今は大学四年の長男、高校三年の長女、中学三年の次女です。長男は離れて住んでいます。離れているとどうしているのだろうかと気になります。子どもたちも忙しい日々を送っています。なかなかゆっくり話せません。そんな時我が家では、温泉とドライブです。

長女と次女は、お風呂が大好き。「お母さん、温泉行こうよ。」「お風呂で話そうよ」とよく言います。佐賀には温泉がたくさんあって、日帰りで行けるので気楽です。女性三人で時々行きます。お風呂につきりながら色々な話ができます。学校のこと、友達のこと、進路のことなど、電話もかかりませんしゆっくり話せます。我が家の楽しみの一つです。

もうひとつドライブも好きです。そんなに遠くへは行きませんが、「お母さん、ちょっとドライブしよう」と声をかけられて、グロットと一回りします。これもまた良い時で色々話せます。将来の夢も聞けます。女の子たちとだけではなく、長男とも塾への送迎の車中ではよく話しました。時には、「お父さんに言わないでよ」と内緒で教えてくれる話もありました。お風呂と車の中は、親子の会話の場です。

今は、テレビやゲーム、パソコンのユーチューブなどに、子どもたちが夢中になりやすいですが、話すことによつて子どもたちの状況がよくわかります。子どもたちが話しやすい雰囲気も大切ですね。大人も多忙です。電話やメール、仕事や家事……、気が付いたら「時間が無い!」ですから。あえて他のことが何もしないでお風呂の中や、ドライブ中に話をするのは、とても良い時間です。共に生活をしていても、各々するべきことに集中し、話す時間は少ないのです。心も離れてしまわないようにと願います。子どもが成長することは嬉しいですが、だんだん親の見えない世界が大きくなり、心配も多くなります。神さまに助けていただき神さまを仰いで歩んでいきたいです。「恐れるな。わたしはあなたとともにいる。」(イザヤ41:10) (相原 幸紀美)



*この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

まごとの隠れ場

間違っても、裏切りもないお方に

大阪市 渡邊 万智子

私がイエスさまに救われたのは、今から約8年前の二〇一〇年、スイスでの語学留学中でした。それまでの私の人生はともむなく、苦しみで満ちたものでした。しかし、三人のクリスマスチャンのあの親切によって……。



▲2009年、スイスの山岳地帯グリンデルヴァルトへ友人たちとハイキング。前列左からキャロル、私、そして右端左からアストリッドとレイチェル

一九六九年十二月、私は大阪で生まれました。両親は結婚当初から仲が悪かったようで、家庭の中に温かいものを感じたことがありません。家族の中で父と父の両親は仏教徒でしたが、母は、「仏像は人間が作った、ただの石や木の固まりで、神様なんてこの世にはいない」と言い、神仏を信じていないようでした。そして私はというと、元旦の初詣、進学時の合格祈願、幸運を願いたい時だけの神社参拝くらい。しかも訪ねたとしても決して心の底から信じている訳ではなく、周囲の人が皆やっている慣習というくらいの事でした。

結婚の夢破れ

父はお酒に酔っては母にひどい言葉を浴びせ、子育てにも家庭のことにも責任を負わず、母は一人家計を支えるために必死で働き、私たち三人の子どもを厳しく育てていました。そのため子供の頃からの私の夢は、自分を大切にしてく

何の為に生きているのか？

分からなくなり、死にたいと思うようになってしまいました。そんな頃、以前イギリス語留学時にクラスメートだったスイス人男性から連絡があったことがきっかけで、仕事を辞めスイスへ行きました。その時は、これが人生の大きな転機になるとは思ってもみませんでした。

着いてみると、スイスは近代的かつ自然豊かな国で、私はスイスが大好きになり、できればスイス人と結婚して永住したいと思うようになりました。知り合えたのは高機能自閉症の男性でした。彼はジェスチャーや人の表情が読めない等の問題

がありましたが、概ね普通の人のように振る舞えました。嘘をつくのが下手、すなわち正直だという点が、むしろ一般男性にはない素晴らしいところと思えたので交際を始め、数か月後にはプロポーズを受けました。彼との結婚が幸せを見出すラストチャンスのように思えました。そして、3か月後、彼と彼の母親が住むアパートに同居し、半年間のドイツ語留学をすることになって、私はうれしくなりませんでした。ところが、全てが順調と思ったのもつかの間、1か月後には三人での暮らしがうまくいかなくなり、出て行ってほしいと言われショックでした。

無条件の受け入れに

学校や観光案内所に相談しても住むところを紹介してもらえず、払った授業料は返金できないと言われ、八方塞がり。かといって過酷な労働と孤独しかない日本へは帰りたいがありません。希望を失い、生きていく気力も無くなり、そのような事態に備えて日本から持参していた大量の睡眠薬を飲んで、スイスのどこかきれいな場所

でも死に場所が決まらないまま翌日また学校へ行くと、クラスメートでブラジル人のキャロルという子が私の異変に気づき声をかけてくれました。事情を説明すると、心当たりがあるから一日だけ待つようにと言われ、翌日、彼女の婚約者の姉であるレイチェルと、その友人アストリッドという二人のスイス人女性が暮らすアパートへ引越しができました。それは信じられない奇跡でした。

何故二人が見ず知らずの日本人を無条件で受け入れ、しかもどの部屋も出入り自由で、置いて

てあるものは全て自由に使ったり食べたりしてもいいし、家賃もいらぬと言ってくれたのか、最初は全く理解できませんでした。でもあとで分かりました。実はこの二人も友人のキャロルもイエス・キリストを信じるクリスチャンで、神様の教えに従って困っている私を助けてくれたのでした。三人とも信仰に根付いたとても優しく明るくて感じの良い人たちだったので、私もそんな風になりたいと思ひ、聖書やイエス・キリストについて教えてもらい始めました。

一人ではなかった

ある日、子供時代のことや、働き過ぎで辛かった孤独な過去について話をすると、キャロルがこう言いました。「あなたはずっとひとりぼっちだと思っていたかもしれないけど、実はイエス様はいつもあなたの傍にいて見守ってくれていたのよ。つらいときも悲しい時も全てご存じで、早く自分の存在に気付いてほしいと思っておられ、今だって目には見えないけど、私たちと一緒にこの部屋にいて、全てを聞いておられるのよ。」そのことを聞いた瞬間、私の体中があたたかいいもので満たされ、涙があふれ出てきました。その頃与えられた聖書の言葉です。「あなたは私の隠れ場。あなたは苦しみから私を守り、救いの歓声で、私を取り囲まれます。」(詩32・3)。この言葉を読んだ時、長年通院や薬でも治らなかつたうつ病はすっかり消え失せていました。なぜ私はあんなに死にたかつたのか? 全く理由が思い出せず、おかしくて心の中で笑ってしまったほどでした。

私は一人じゃなかつたんだ。イエス様という方が一緒にいてくださったんだ。幼少期から宗

教や神仏を信じていませんでしたが、この時初めて神様がおられると確信しました。そして翌年二〇一〇年一月十六日、イエス・キリストを私の救い主と信じ、救いの道を教えてくれたクリスチャンの友人たちに囲まれ、美しい冬のスイスで洗礼を受け生まれ変わる事ができました。

その後、私は日本に帰国し、今は母と二人で暮らしています。帰国後3年間いくつかの教会に出席させていただいた後、現在は、大阪インターナショナル教会のメンバーとなり、友人も出来、教会の先生(宣教師)の秘書として働かせていただいています。母もまた教会の方の配慮で、子どもを見る仕事のお手伝いをしていています。彼女も苦労してきましたし、私の事では沢山の心配をかけましたが、今の私を喜んでくれていたら嬉しいです。両親はぜひぶん前から別居してはいますが、今では父ともたまに会い家族と一緒に食事をします。二人がイエス様を信じてくれることを願ひ、神様の御愛に感謝しつつ。

「主は遠くから、私に現われた。『永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。』」(エレミヤ31・3)



▲2017年、招かれた日本ミッションのクリスマスパーティーで